

アフガニスタンを知って、 そして忘れないで！

講師：春木信韻さん



1月20日（土）に大津公民館において、国際理解出前講座「アフガニスタンを知って、そして忘れないで！」を実施しました。

講師は、「アフガニスタン義肢装具支援の会」の活動に参加し、10年以上にわたり、これまで300人近くの方々に義肢を届けてこられた春木信韻さんです。

はじめに職員が、小学校の教科書にも出てくる「せかいいいち うつくしい ぼくのむら」というアフガニスタンを舞台にした絵本を朗読しました。

紛争が続くアフガニスタンでは、国民の6～7%が地雷によって手足を失っていると言われています。紛争が起こる前の、美しい風景や歴史的建造物の写真と現在の様子を比較しながら、アフガニスタンの人々の暮らしぶりや活動の様子をお話しさされました。

現在は、安全上の理由から渡航ができなくなっていますが、今でも毎日のようにアフガニスタンから「いつ来てくれるのか」と電話がかかってくるそうです。



春木さんは、「義肢の支援は、義肢を手渡した時から始まる」とおっしゃいます。壊れたり、子どもの場合成長するにつれて義肢が合わなくなったりするので、継続的な支援が必要だからです。「義肢を届けることは夢を届けること。義足で歩けるようになったら、学校に通って、将来は人の役に立つ仕事をしてほしい。」春木さんの思いに参加者のみなさんは心を打たれた様子でした。